

2010 年 7 月 7 日

## 立原道造記念館の運営について（現状報告とお願い）

時下、ますますご清祥のこととおよろこび申し上げます。

平素は、当館の事業につきまして格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本日は、当館の運営の現状と今後の方針をご報告いたしたく、認めさせて頂きました。

立原道造記念館は、故立原達夫氏（立原道造のご令弟）の《立原道造を顕彰し後世に伝えたい》という強い志に賛同いたしました故鹿野琢見氏により、1997 年 3 月 29 日、私立の記念館として開館いたしました。

しかしながら、長引く経済不況という社会情勢の中で、開館以来、赤字経営を余儀なくされてまいりましたが、故鹿野氏のご尽力を中心といたし、後援団体である立原道造の会および有志からのご援助によりまして、何とか運営してまいりました。ところが、2009 年 10 月 23 日、鹿野氏のご逝去なさるといふ哀しい仕儀となり、大きな後ろ盾を失うこととなりました。

当館では、このような窮状に陥りましても創立者のご遺志を尊重いたし、また、立原道造の会および立原道造を愛する方々等からの更なるご支援を賜り、一日でも長く開館を続けてまいりたいと様々な施策を講じ、現在まで運営いたしてまいりました。

しかし、芸術活動に対する社会情勢は好転の兆しが見えず、当館のような財政基盤が極めて脆弱な記念館の存続には、大変厳しい現実直面いたす日々が続いております。

つきましては、この度、断腸の思いで、下記のような選択をいたす仕儀となりました。

皆様方におかれましては、この選択をご理解の上、今後とも更なるご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

### 記

1. 現在開催中の、開館 13 周年記念特別展「立原道造が遺したものたち 愛蔵品を中心として」(会期：2010.3.27-9.26) 終了後の 9 月 27 日から、記念館は、休館することとする。
2. 立原道造の会は、立原顕彰を後援するとともに、立原を愛する方々との絆を大切にしてくため、今後とも存続させることとする。従って、例年行ってきた風信子忌（墓前祭・講演会・懇親会）も、開催を継続する。なお、事務局を何処に置くかは、今後の検討課題とする。
3. 記念館の休館後は、館報『立原道造記念館』も休刊とするが、代わりに、現在休刊中の立原道造の会の会報『風信子通信』を復刊させ、立原顕彰と関係各位への広報誌とする。
4. 休館後の＜立原道造の顕彰方法＞については、関係者間で十分協議し、各位の納得出来る結論を導き出すよう鋭意努力をする。そして、2010 年 10 月中には、顕彰方法の詳細を、改めてご報告することとする。

本件につきましてのご質問等は、以下宛に書面（FAX・書状）にてお願いいたします。

〒103-0032 文京区弥生 2-4-5 立原道造記念館（FAX：03-5684-8660）